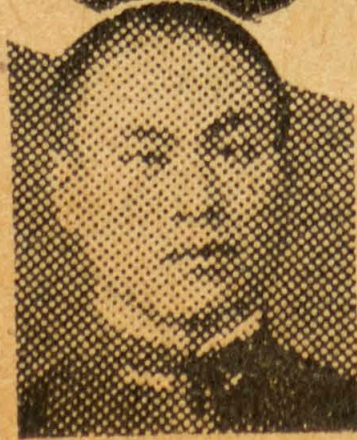
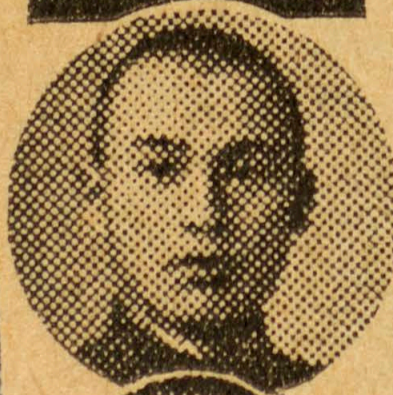
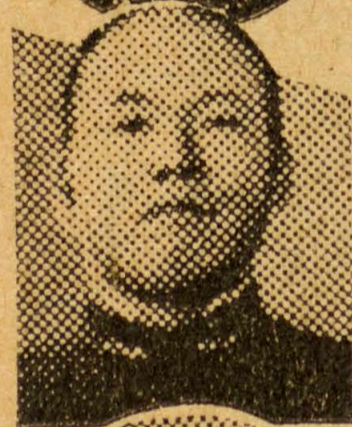
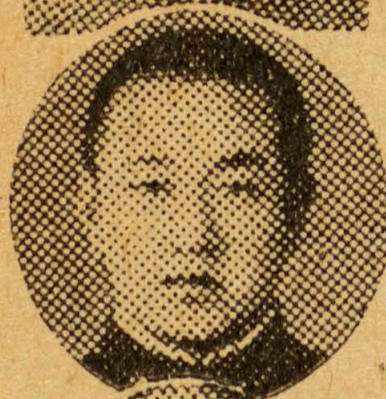
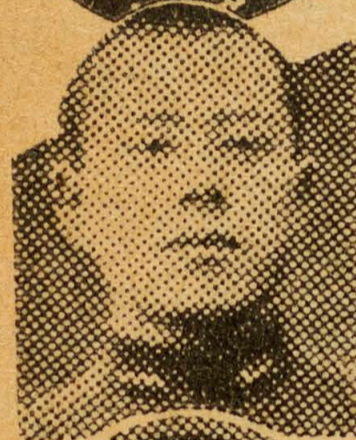
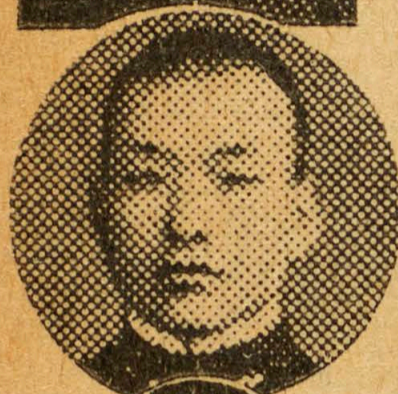
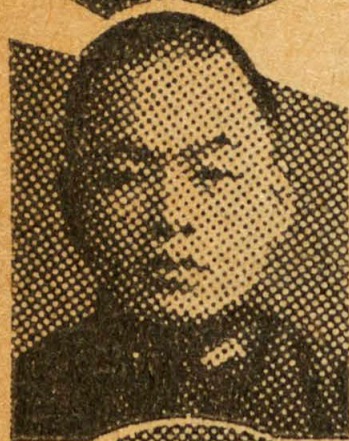
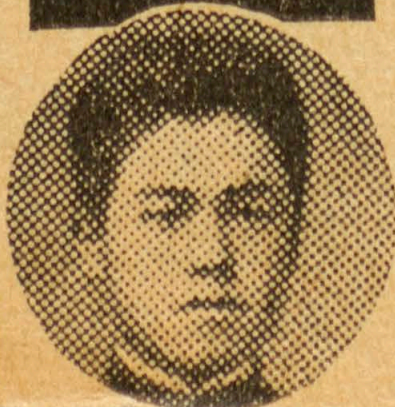
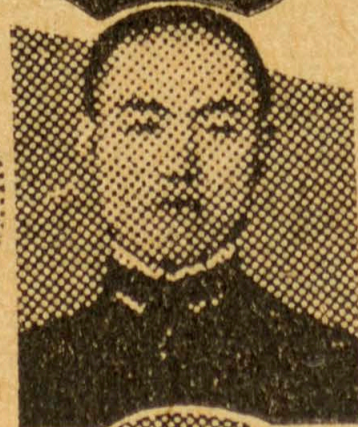
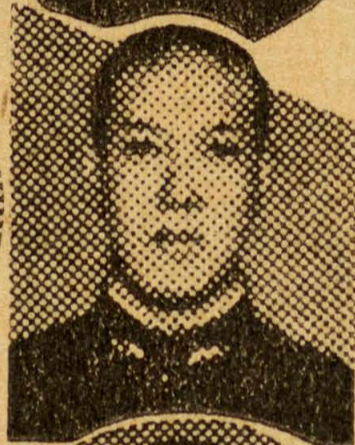
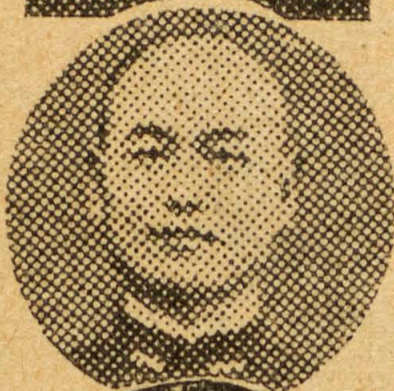


# 海軍側被告

(右側上より)三上卓中尉、山岸宏中尉、中村義雄中尉、古賀清志中尉、村上格之少尉、黒岩勇少尉、塚野道雄大尉、田崎元武大尉(左側上より)鈴木四郎大尉、村上功大尉、林正義中尉、大庭春雄少尉、伊東龜城少尉、古賀忠一少尉、澤田邨(アキラ)少尉、濱勇治大尉



W12218.078

# 奥田取調中木内検事の第六感

## 遂に車中から同行を求む

検事局が大川博士に疑惑をかけはじめたのは木内検事が三菱銀行襲撃を企てた元明大生奥田秀夫を取調べた際同人の口からもれた一言からであつた、當時奥田は取調べ

思つたのですが門下生が大勢ゐる面前では先生のためにならぬと思つてこゝまで来たのですと丁寧に行方を求めると博士も

**納得** し、土浦驛へ著くと

下車し二台の自動車を雇入れ、十

博士は八戸市の神武會發會式に臨む筈で三千圓を所持してゐた博士は十六日朝著京と同時に中里報事から拘留訊問を受け直ちに強制收容されたが市島、佐野、岸本の三検事は時を移さず品川區上大

査局、神武會本部、行地社などを搜索したが調査局の如きは十余室を借りてゐるほど組織の整つたもので調査局の大川博士の居室から**現金** 一萬圓が現れたので